

那覇支店開設五〇周年記念展示を開催中

▼一九七二年の沖縄の本土復帰とともに開設した那覇支店は、本年五月十五日に開設五〇周年を迎えました。これを記念して、支店の展示広場に特別展示コーナーを設置しました。

▼特別展示コーナーでは、支店開設時の重要な任務の一つであった米ドルから円への通貨交換の様子を紹介しています。東京から五四〇億円、コンテナにして一六一個分の現金を運び、



特別展示コーナーの様子

県内全域での通貨交換を完了するまでの様子を、当時の職員インタビュー記事やスライドショーなどで解説しています。ぜひ、お立ち寄りください。

▼特別展示の開催は二〇二二年十二月三十日（金）まで、開館時間は支店営業日の午前九時から午後三時です（入館無料）。詳細は日本銀行那覇支店のホームページをご覧ください。



「決済の未来フォーラム クロスボーダー送金分科会（第四回）」を開催（五月）

▼決済機構局では、五月二十三日に標記会合を開催しました。

▼会合では、①クロスボーダー送金の改善に向けた国際的な取り組みや、②AML／CFT対策（注）について、活発な議論が交わされました。

▼①では、クロスボーダー送金の課題（コスト、スピード、アクセス、透明性）の改善に向けて、昨年G20で合意された定量

的な目標関連の議論を含めて、さまざまな国際的な取り組みが紹介されました。今後、国際的な取り組みの重点が、課題の背景に関する基礎的な調査から、

改善の実現に向けた具体的な取り組みに移るため、官民の協力が一層重要になると説明されました。参加者からは、クロスボーダー送金ビジネスの改善に向けて、日本で取り組みを進める際、海外の取り組みも参照し得るといった声が聞かれました。また、顧客のニーズにきめ細かく対応するといった、日本固有の商習慣などを意識すべきとの意見も聞かれました。

▼②では、AML／CFT対策について、国際的な議論や、高度化に向けたAIを活用した実証事業などが紹介されました。高度化に向けた取り組みでは、デジタル技術を活用していく必要があるとの声が聞かれました。また、決済サービスを提供する事業者が増える中、幅広くAML／CFT対策の高度化を

目指す必要があるとの見方も示されました。

（注）マネーロンダリングおよびテロ資金供与対策を指す。

「決済の未来フォーラム デジタル通貨分科会…中央銀行デジタル通貨を支える技術（第四回会合）」を開催（六月）

▼決済機構局では、六月二日、標記分科会をオンラインで開催し、企業などで最先端の研究や実務に携わる方々から、中央銀行デジタル通貨（CBDC）に活用し得る具体的な技術や取り組みを紹介いただきました。

▼セッション①では、最近注目が高まっている「組み込み型金融」とCBDCの関係について、有識者の方々から最新の業界動向を交えて発表していただきました。セッション②では、CBDCシステムの基盤となる「台帳」について、データ形式などの技術的側面を中心に有識者の方々と活発な議論が行われました。セッション③では、デジタル

編集後記

■エッセイでは、小説家の恩田陸氏にご寄稿いただきました。私もその一人ですが、鋭い指摘に共感された方も多いのではないのでしょうか。

■対談では、ポール・クルーグマン、トマ・ピケティの翻訳などで知られる山形浩生氏と若田部昌澄副総裁にお話しいただきました。才能を開花させるきっかけ、仕事と遊びの境界の定め方やその相乗作用、さらには、スペシャリストとジェネラリストの役割分担など、いずれも興味深い話題について率直なやり取りをしていただきました。

■インタビューでは、華道家の假屋崎省吾氏を取材しました。今や世界を股にかけてご活躍しておられますが、ここに至る道のりは決して平たんではなかったそうです。ただ、その過程において、「直感を信じ、集中して取り組む。時には早く諦めて切り替えた方が良いこともある」というお考えを実践しておられ、とても潔いと感じました。

■地域の底力では、和歌山県の有田川町を取り上げました。町を愛する住民の皆さまが、自ら町の未来を考え、行政と一体となって取り組むことで、変化を生んでおられます。まさに地域の底力を感じる内容となっています。(上口)

【アンケート募集中】

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。

日本銀行のホームページからもご回答いただけます。

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<https://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2022年秋号
編集・発行人 上口洋司
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-1609



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
禁無断転載

ル時代の金融サービスにおける相互運用性と標準化について、同様のテーマを扱った決済システムレポート別冊(本年三月公表)の解説と、パネルディスカッションが行われました。

▼日本銀行としては、企業の皆さまが有する最新の技術やノウハウを学習し、CBCDCの実証実験や制度設計に活かしていくことが大切と考えています。また、こうした活動を通じて、CBCDCの検討に関する連携の輪が広がっていくことを期待しています。

▼本フォーラムの議事概要などは、日本銀行ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

貨幣博物館
「にちぎん一四〇周年企画展」
「水辺の風景と日本銀行」
「日本橋川と中央銀行誕生までのあゆみ」開催中!
二〇二三年十二月四日(日)まで

▼水辺再生への機運が高まりつつある現在、貨幣博物館の隣を流れる日本橋川周辺でも新しい街づくりが始まっています。



1882年水辺に開業した日本銀行遠景

日本銀行の創設前、日本橋川周辺には三井組、第一国立銀行などの金融機関の大建築が次々と建てられ、それらを含む水辺の風景を描いた錦絵が多く描かれました。

▼一八八二年日本銀行開業の地(日本橋箱崎町)、そして現在の日本銀行本店の地、いずれも、日本橋川の水辺の立地です。

▼明治初期の試行錯誤の中で、貨幣・金融制度が整備され、日本銀行が誕生するまでの歩みを、明治初期の日本橋川沿いを描いた錦絵と共にご紹介しします。

※開館日等の情報は貨幣博物館ホームページをご覧ください。

